

総合型地域スポーツクラブ利用者の意識に関する研究

－スポーツ政策が目指す存在意義との比較から－

唐澤 杏子 (東京学芸大学)

1. 目的

本研究の目的は、総合型クラブ利用者の意識を調査することを通して、スポーツ政策が目指す存在意義との比較、さらには利用者の意識変化に触れながら明らかにしていくことである。加えて、今後の地域スポーツに求められる姿を模索することを目指した。

2. 研究方法

- 1) 対象者：20歳以上の黄金井倶楽部利用者
- 2) 調査方法：質問紙回収法を行った。また、調査者自身がレッスンに参加し、ラポールが形成できるよう努めた。2週間にわたり、個別で5分程度のインタビューを実施した。
- 3) 分析方法
利用者の実態、スポーツ経験、活動状況、健康意識、運動実施意識について得られたデータから実態を把握した。
参加歴と利点の関係、地域コミュニティ意識についてクロス集計を行い、 χ^2 検定を実施した。
利用者29名に5分程度のインタビューを行い、補助データとした。
本研究から得られたデータと、黄金井倶楽部が所有する実態のデータを比較検討した。

3. 結果と考察

- 1) 利用者の健康意識
スポーツを行う目的として「健康のため」と考える利用者がほとんどであった。健康志向でスポーツを行う利用者が多いと推測できる。また、スポーツを行うことで健康への効果を楽しんでおり、今後のスポーツ継続意

欲につながると考えられた。

2) 利用者の運動実施率

運動実施率の向上について、大きな成果を期待できないが、今後のスポーツ継続意欲はほとんど全員が持っていることが明らかになった。総合型クラブへの参加によって、運動継続意欲が身につけられたと言える。

3) 利用者の地域コミュニティ意識

黄金井倶楽部に参加し活動していく中で、結果的にコミュニティづくりができていくことが明らかになった。地域の友人数については過半数の利用者が増えたと感じていた。

4. 結論

本研究の結果、まず「国民の健康水準の改善」については、利用者の健康意識が高まり地域住民の健康水準の改善につながっている点からは実現していると推測できる。

「生涯スポーツ社会の実現」については、参加することで今後のスポーツ継続意欲を高められる一方で、運動実施率の向上においては、あまり効果が出ていないことが明らかになった。

「地域交流、地域コミュニティの核となる場」については、参加動機で地域コミュニティに関わることを考える人は少ないが、活動していく中でコミュニティが形成されていると明らかになった。

5. 主な参考文献

- 1) 熊谷賢哉 総合型地域スポーツクラブへの参加が地域住民の健康に及ぼす影響について『長崎国際大学論議』第6巻 pp. 9-16 2006年